



昭和電工セラミックス株式会社

本レポートの内容に関するお問い合わせは以下へお願いします。

本社・塩尻工場 総務部

〒399-6461
長野県塩尻市大字宗賀1
Tel: 0263-52-0180
Fax: 0263-52-2995

富山工場 環境安全グループ

〒931-8577
富山県富山市西宮町3-1
Tel: 076-437-9201
Fax: 076-437-6600

横浜工場 CSRグループ

〒221-8517
神奈川県横浜市神奈川区恵比須町8
Tel: 045-453-5111
Fax: 045-453-5004



昭和電工セラミックス株式会社

CSR REPORT 2019



2019年7月発行





昭和電工グループ 経営理念

私たちは、社会的に有用かつ安全で
お客様の期待に応える製品・サービスの提供により企業価値を高め、
株主にご満足いただくと共に、国際社会の一員としての責任を果たし、
その健全な発展に貢献します。

会社概要

■ 昭和電工セラミックス株式会社 (昭和電工株式会社の100%子会社)

社長	大王 宏																											
設立	1985年11月																											
資本金	460百万円																											
従業員	353名 (2018年12月31日現在)																											
拠点	<table border="0"> <tr> <td>本社・塩尻工場</td> <td>所在地</td> <td>長野県塩尻市大字宗賀1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>敷地面積</td> <td>300,000m²</td> </tr> <tr> <td></td> <td>従業員数</td> <td>153名</td> </tr> <tr> <td>富山工場</td> <td>所在地</td> <td>富山県富山市西宮町3-1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>敷地面積</td> <td>210,000m²</td> </tr> <tr> <td></td> <td>従業員数</td> <td>118名</td> </tr> <tr> <td>横浜工場</td> <td>所在地</td> <td>神奈川県横浜市神奈川区 恵比須町8</td> </tr> <tr> <td></td> <td>敷地面積</td> <td>189,000m²</td> </tr> <tr> <td></td> <td>従業員数</td> <td>82名</td> </tr> </table>	本社・塩尻工場	所在地	長野県塩尻市大字宗賀1		敷地面積	300,000m ²		従業員数	153名	富山工場	所在地	富山県富山市西宮町3-1		敷地面積	210,000m ²		従業員数	118名	横浜工場	所在地	神奈川県横浜市神奈川区 恵比須町8		敷地面積	189,000m ²		従業員数	82名
本社・塩尻工場	所在地	長野県塩尻市大字宗賀1																										
	敷地面積	300,000m ²																										
	従業員数	153名																										
富山工場	所在地	富山県富山市西宮町3-1																										
	敷地面積	210,000m ²																										
	従業員数	118名																										
横浜工場	所在地	神奈川県横浜市神奈川区 恵比須町8																										
	敷地面積	189,000m ²																										
	従業員数	82名																										

事業内容 研削材、耐火材、超高压製品、ファインセラミックス成形体、フィラー材、酸化チタンの製造、販売

■ 昭和電工株式会社

社長	森川 宏平
設立	1939年6月
資本金	140,564百万円
従業員	連結 10,476名 単独 3,347名 (2018年12月31日現在)
本社所在地	東京都港区芝大門1-13-9
事業内容	石油化学、化学品、エレクトロニクス、無機、アルミニウム、その他



沿革

- 1933年10月 日満アルミニウム株式会社としてアルミニウムの製造を開始
- 1943年10月 日満アルミニウム株式会社に昭和電工株式会社に吸収合併し昭和電工株式会社富山工場となる
- 1946年10月 カーバイド、石灰窒素肥料の製造を開始
- 1959年4月 高炭素フェロクロムの製造を開始
- 1969年8月 高炭素フェロニッケルの製造を開始
- 1983年1月 熔融シリカの製造を開始
- 1983年11月 スポンジチタンの製造を開始
- 1987年1月 球状アルミナの製造を開始
- 1988年7月 高純度酸化チタンの製造を開始
- 1994年3月 空気分離装置の受託生産を開始
- 2014年1月 昭和電工セラミックス株式会社に商号を変更
- 2014年10月 東北金属化学(株)吸収合併によるSHOROX®生産を移行
- 2015年10月 横浜工場設立

■ 編集方針

本レポートは、お客様、地域社会、取引先、従業員の皆様と私どもを結び、コミュニケーションを深めていただくことを目的に作成いたしました。本冊子を手にとった方に少しでも興味を持っていただけるよう、素材メーカーである当社がどのように社会とつながっているか、CSR活動の取り組み事例を挙げながらできる限りわかりやすく報告するように努めています。特集では、「SDGsとは何か」の講演の内容と従業員同士による座談会を開催し、「SDGsと仕事」のつながりを、従業員が考えるままにお伝えしています。本レポートをお読みいただき、ご興味を持っていただけたら工場見学へ足をお運びいただき、CSR活動に関する意見交換、情報交換をさせていただきますながら、皆様との交流が深まるきっかけになればと願っております。

■ CSR (Corporate Social Responsibility)

企業が事業活動において利益を追求するだけでなく、様々なステークホルダーとの関係を重視しながら果たす社会貢献のこと。その対象は環境、労働、安全、衛生、人権、雇用創出、品質など幅広い分野に拡大している。

■ CSRレポートの報告対象範囲

昭和電工セラミックス(株) 塩尻工場・富山工場・横浜工場を対象としています。2018年1月～12月の情報に2019年の情報を付け加えています。環境データの一部は、2018年4月～2019年3月のものです。

昭和電工セラミックスは、 事業活動を通じて 持続可能な社会・開発の 実現を目指します

当社は、昭和電工グループの一員としてグループ経営理念、CSR方針に則り、社会的責任を果たし、従業員一人ひとりがRC（レスポンシブル・ケア）、CSRを意識しながら活動に取り組んできました。この間、国際的規範類は社会の変化に対応して、制定、改定の動きが顕著になっています。その一つが2015年に国連サミットで全会一致で採択された「持続可能な開発目標」（SDGs）です。全ての国々、政府、企業、世界中の人が協力することが必要とされ、2030年を年限とする17の国際目標を達成するためSDGsに対する意識は高まりつつあります。

一人ひとりがSDGsを身近に 感じられる活動を推進する

従来のRC活動やCSR活動は当たり前に行ってききましたが、改めてSDGsの目標を意識しながら取り組むことはとても重要だと感じています。RCは責任、SDGsは貢献と視

点は違いますが、一人ひとりがこんなことをやってみたいと思うような機会を増やし、各工場で様々なことに取り組み、SDGsを昭和電工セラミックス（以下、SDC）のシンボル活動として進めていければと考えています。SDGsへの取り組みは難しく考えないで、今まで取り組んできた活動に工夫と視点を変えればいいのではないのでしょうか。そして、SDGsの観点から、将来何をしなければいけないかをバックキャストिंगして、今必要なことに取り組んでいければよいと考えます。

当社で製造している製品の多くは素材・部材のため、皆様が直接、目にする機会は多くありませんが、社会の発展を支える必要不可欠な製品です。当社の製品をお客様へ安定的に供給し、当社が持つ高付加価値の製品・技術・サービスを提供し、社会課題解決に貢献する企業を目指していきます。

ステークホルダーの皆様には、当社の活動にご理解いただくと共に、忌憚のないご意見やご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

大 王 辰



ひとめでわかる

昭和電工セラミックスのCSR

昭和電工グループは経営理念のもと、持続的に発展し、社会から信頼・評価されるために、株主様をはじめ、お客様、取引先、地域関係者、社員など、全てのステークホルダーの皆様にご満足いただけるよう、建設的な対話を進めながら企業価値の向上に努めています。株主価値・顧客価値・社会価値の最大化に向けた経営を今後とも推進していきます。

CSR方針

昭和電工グループは、現在推進中の中期経営計画「The TOP 2021」において、当社グループの製品・技術が、地球環境やエネルギー・資源問題等の社会的課題の解決に貢献できるように事業を進めています。

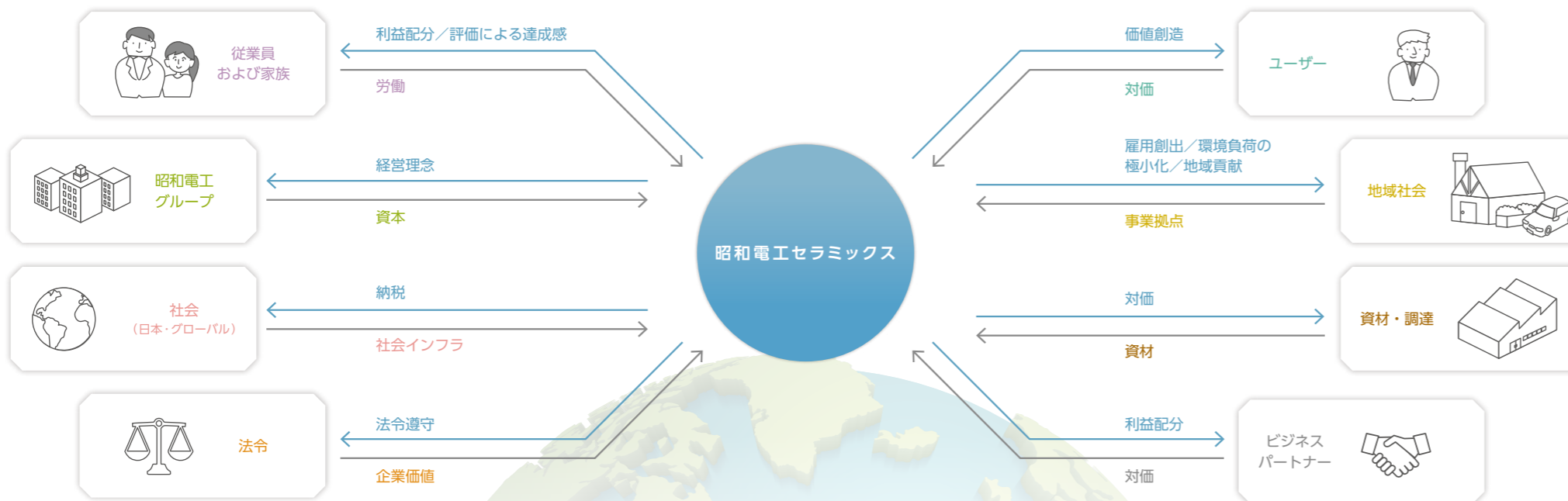
特に「The TOP 2021」期間においては、「安全とコンプライアンスを基盤としたリスクマネジメントの深化とCSRコミュニケーションをもとにした機会の創出による経済的価値・社会的価値の創造」に重点を置いた活動を進めています。

当社グループの考えるCSRとは、「事業活動を通じたSDGs課題解決への貢献と、私たちの行動規範に基づく全社員の行動によりすべてのステークホルダーにご満足いただける社会貢献企業を目指すこと」です。当社グループは、製品・技術・サービスの提供により、豊かさや持続性が調和する社会の創造に貢献していきます。

昭和電工セラミックスのCSRマネジメント



昭和電工セラミックスと社会との関わり



CONTENTS

- 01 経営理念／沿革／会社概要／編集方針
- 03 トップメッセージ
- 05 ひとめでわかる昭和電工セラミックスのCSR
- 07 あなたのそばにSDC!

09

特集
 特集01講演会
SDGsとは何か
 特集02座談会
私たちの仕事とSDGsはどうつながるか

ISO26000の中核課題 ●●●●●● ●●●●●● ■：ステークホルダーの声

- 13 **組織統治**
 - 私たちの行動規範／コンプライアンス
 - 取締役会 ● 監査役監査 ● 遵守評価 ● 内部監査 ■■
- 15 **人権**
 - 改善提案制度・ヒヤリハット ● 人権教育
 - 5S活動への取り組み ● 労働組合との対話
 - ビジネスマナー講座 ● 安全の取り組み ■■
- 17 **労働慣行**
 - 改善活動 ● 人材育成の取り組み
 - 緊急事態への対応 ■■
- 19 **環境**
 - 廃棄物削減の取り組み ■■ ● エコ事業所認定
 - リサイクル実例 ● 環境データ
 - 発電設備の紹介
- 23 **公正な事業慣行**
 - CSR調達
 - 顧客満足度調査 (CS調査)
- 24 **消費者課題**
 - マネジメントシステムの取得
 - 品質保証体制
- 25 **コミュニティへの参画
およびコミュニティの発展**
 - レクリエーション ● 工場見学会
 - アルミ缶リサイクル活動 ● 次世代育成支援活動 ■■
 - 各種施設の開放 ● プラスチックリサイクル活動
 - ストレスチェック制度 ● 地域清掃活動
 - 健康増進の取り組み ■■ ● 納涼祭
- 29 2019年 CSR 行動計画
- 30 CSR 報告書2019に対する 第三者意見

あなたのそばにSDC!

私たち昭和電工セラミックス (SDC) が製造している製品の多くは、皆様が直接、目にする機会は多くありませんが、社会の発展・皆様の暮らし・生活を便利にする様々な製品の素材・部材として使われています。ここでは、産業分野や身近な暮らしに使用されている製品をSDGsの目標と関連してご紹介します。

スーパータイタニア® (酸化チタン)

複雑な電子機器の電圧変動を抑えるコンデンサの原料として、パソコンやスマホなどに使用されています。1台の中に、数百個から数千個も使われています。



低ソーダアルミナ AL シリーズ

家電・パソコンなどの電子機器や、電気自動車の電池などから発生する熱を逃がすため、樹脂やゴムの部材に添加されています。



ショウビーエヌ® UHP

電子機器内部で、熱源 (半導体チップ等) と放熱部材 (金属製フィン等) を接着する絶縁放熱樹脂シートへの充填剤に使われています。



SHOROX®

液晶パネルや、パソコンのハードディスク等の高精度が要求される部材の最終鏡面研磨仕上材として使用されています。



アルナビーズ® CB

電化製品の放熱材として使用されています。複雑な電子機器の性能を維持するために欠かせない材料です。



SBN K-TIP® (エスピーエヌKチップ)

自動車部品をはじめとする鉄系材料の研削・切削加工用素材として広く利用されている他、難削材加工としても使用されています。



ホワイトモランダム® WA

自動車や産業機械に使用される部品、部材等の研削・研磨のための研削砥石、切断砥石、研磨布紙 (ベルト) 等に使用されています。



丸み状アルミナ AS シリーズ

家電・パソコンなどの電子機器や、電気自動車の電池などから発生する熱を逃がすため、樹脂やゴムの部材に添加されています。



SDGs (持続可能な開発目標) 達成への取り組み

2015年9月の国連持続可能な開発サミットで150を超える加盟国の首脳が参加のもと、その成果文書として、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。このアジェンダで2030年までに達成すべき目標として掲げられたのが、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標 (SDGs)」です。

SDGs は官民共通の目標として課題解決を求められていることが特徴です。昭和電工セラミックスは事業を通じて持続可能な社会の発展に貢献していきます。





特集01：講演会 SDGsとは何か

p.10



特集

Special Feature



特集02：座談会

私たちの仕事とSDGsは どうつながるか

p.11



特集01：講演会 SDGsとは何か

経済・社会・環境の三方面から 持続可能な開発を目指すSDGs

昭和電工セラミックス株式会社（以下：SDC）は、2018年よりSDGsの活動に意欲的に取り組み、豊かさと持続性が調和する社会への貢献を目指しています。今後、さらに重点的な取り組みを行うべく、2019年3月20日に富山工場にて講演会を開催しました。一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事の堺勇人氏を講師としてお招きし、SDGsの基本から今後の課題までをお話いただき、各々ができることを考えました。

地球に住む人全員の幸せのためにできること

SDGsの正式名称は、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」。簡潔に説明すると、「みんなの幸せをみんなで守ろう」という誓いです。これは、2015年に国連サミットで採択された国際目標であり、加盟国全193ヶ国が反対しなかった人類史上初の行動指針でもあります。SDGsは発展途上国のみならず、先進国、そして民間人、先住民とも話し合っ採決したもので、「地球に住む人全員の幸せを守る」「誰一人取り残さない」ということを謳っています。

なぜSDGsという目標を立てたのか。それは「不幸の連鎖で地球の限界が見えてきたから」とされています。我々人間は、豊かさを追求し、経済活動を続けてきました。その結果、経済発展は上向きですが、一方で多数の社会問題や環境問題が発生しています。避けられなくなったそれらの問題を解決するために資金が必要になると、経済状況もやがて下降の道を迎えるでしょう。

このまま変革を起こさなければ、「地球の限界」は2030年にやってくるといわれています。そこで、国連は2030年までに解決する具体的な17の課題を提言しました。それによりまず期限が可視化されたことで、そこを起点に現在を振り返って今すべきことを導き出す「バックキャスト」の視点で問題解決を図ることができます。さらに、具体的な17の課題には「芋づる式」という特徴があります。一つの課題をクリアできれば、それに伴って他の課題も解決するという連動作用があり、相互に関連し合う仕掛けづくりができています。

これらの特性を生かし経済・社会・環境の3つのバランスを整えていくことが、SDGsをゴールに近づけるのです。

日本におけるSDGsの取り組みについて

日本でも積極的な取り組みが行われています。政府にはSDGs推進本部が設置され、具体的な8つの優先課題が指針として設定されています。他にも、「SDGsアワード」といったSDGsの取り組みとして有益な活動をしている企業や団体を表彰する活動も行っています。また、内閣府地方創生推進室は、自治体によるSDGsの達成に向け、優れた取り組みを提案する29都市を「SDGs未来都市」として選定しています。SDCの拠点である富山市や横浜市、そして長野県もこの「SDGs未来都市」として選出されているのです。

SDGsが求める「四方よし」の考え方

SDGsの目標を達成するために、「企業力」は必要不可欠であり、非常に重要です。より良い社会を目指して多くの技術開発を行う企業や産業活動では、可視化されていなかった部分が負の要素となって世界に様々な影響を及ぼしています。しかし発想を逆転すると、あらゆる企業が社会や環境問題を解決するための活動を行うことで、一気に解決への道がひらけてきます。

SDGsに取り組むにあたり、一つ参考となるのは、日本に古くからある「三方よし」の考え方です。売り手と買い手がともに満足し、さらに社会貢献になるという商売の心得ですが、SDGsはこの「三方」に「未来」が加わった「四方よし」の考え方ができるのではないのでしょうか。SDGsは今だけでなく未来を見据えた持続可能な行動指針なのです。企業、個人など立場が変わっても「四方よし」の考えを持つことを、SDGsでは求めています。



昭和電工セラミックスが考えるSDGsとの関わり方

SDGsの講演会を受講して、どのような気付きがあったか？

- **小口** 私はSDGsを初めて知りました。言葉自体は耳にしたことがありますが、内容を認識したのは今日が初めてです。テレビや新聞、インターネットで様々な情報に触れてはいますが、自分の欲しいものや見たいものしか選ばず、それ以外の情報からは遠ざかっている気がします。今回はとてもいい機会でした。
- **三浦** 講演会を終えて改めて感じたのは、ある課題が改善されると、別の課題にも波及していくことです。SDGsは17の目標で構成されていますが、そのうち一つに取り組むと、他の目標にもつながり、良い影響を与えていくとは驚きました。
- **佐々木** 私は今から10年後を考えるよりも、10年後どうありたいかを考え、そこから逆算し、今どうすべきかを考える“バックカスティング”の大切さを学びました。
- **柳原** 私もバックカスティングの考え方はとても参考になりました。

りました。今携わっている仕事内容は何十年も続いてきたものですが、長い間解決できていない課題もあります。柔軟に対策するヒントをもらえた気がしました。

- **草刈** 小さなことから世界は変えられるということを知りました。何十億人がいる世界の中で、誰一人取り残さないという目標は、小さなことを積み重ねて実現するものだ気がつきました。一人が実践したことだけでは変わらないかもしれませんが、その一人が始めないと世界は救われれないと思いません。みんなで声を掛け合い、助け合っていくことが大切ですよ。
- **村田** 私も未来に向けての重要な取り組みだと感じました。先ほどの講演会で紹介された、海に捨てられたペットボトルなどのゴミを動物が食べてしまう事実には衝撃を受けました。ゴミは当然人間が捨てていますし、もしかしたら日本人もその中に入っているかもしれません。企業ごとに取り組むだけでなく、一人ひとりが行動に移さないとSDGsの活動は進んでいかないのでと思いました。

便利になった世の中を、SDGsの目線から考える

- **佐々木** 便利かどうかでいえば、便利な方がいいのですが、私は夜中あまり出かけないので24時間営業などは必要ありません。世の中には様々な働き方があるので、必要としている人がいるのは理解していますが、コンビニなど全部の店舗で24時間営業する必要があるかは疑問ですね。
- **三浦** 私も24時間営業の必要性は疑問です。最近、恵方巻きの売れ残りが大量にゴミになっているニュースを目にしました。イベントを行うのはいいと思いますが、本当に必要なものかどうかは見極めていかなければと。利便性とのバランスが大事になってくると思います。
- **草刈** 私が今働いている横浜市はゴミの分別が厳しいです。特に紙類は、段ボールや上質紙、新聞紙など約6種類に分ける必要があります。住んでいる場所はまた別の市町村なのですが、プラスチックの捨て方は横浜市と全く違います。自治体によって取り組み方が様々ですが、ゴミを再利用して環境問題の解決に結びつけることは、やはりSDGsにつながりますよね。

オブザーバー（当日はファシリテーター）コメント

一つの事象をとっても、どう受け取るか、どこが刺さるかは人それぞれ違います。バックカスティングを理解し、課題に向き合う姿勢は大切ですが、一人で立ち向かおうとすると、どこかで壁にぶち当たります。会社には様々な得意分野を持った人がいます。一人ではできないことを工面できるのが企業や自治体の長所なので、それを生かし、目標を達成することはSDGsの要素にも含まれています。

ある目標を達成するために行動したことが、もう一方ではマイナスに働く場合もあります。違う工場同士でも、パートナーシップでお互いに声を掛け合い切磋琢磨し、バランスを取りながら、より良いSDCになることを応援しています。

一般社団法人
環境市民プラットフォームとやま
堺 勇人さん

環境市民プラットフォームとやま
SDGs達成を目指す、富山県の市民
団体、企業、大学、個人等のメンバー
が集まって結成したローカルプラ
ットフォーム



今後どのような変化が起きるかを考えたうえで、SDCにとって一番大事なものを

● **村田** 私は6番（安全な水とトイレを世界中に）です。会社は化学製品を扱っているので、排水や排ガスも多く出しています。規制値を守るなど数値や目で確認できることは今まで通り実施していきますが、排水や排ガスの量を今後より削減する意識を持たば、住みやすい日本になるのではと思います。

● **三浦** 私は9番（産業と技術革新の基盤をつくろう）です。IoTという言葉が最近よく聞くように、人材が不足している現在、ITの活用が今後大切になってきます。SDCもIoT化を進めています。まずは誰でも簡単に操作や作業ができる仕組みをバックカスティングで考えるべきなのかなと思いますね。

● **草刈** 業務上の目標としては排水や排ガスの数値などを正しく分析して報告し、綺麗な水質を保つことですが、私は10番（人や国の不平等をなくそう）も仕事に関わっています。私の職場では10年ほど前から知的障がいの方を受け入れています。時代が変わるにつれて、装置も新しくなるので、障がい者の方が操作する時や覚える時などに、私が教えることも多いです。正直、障がい者を受け入れることに対して、厳しい意見もあります。受け入れてもらうには、間に入る私たちが気をつける点を伝えることが大切だと思います。障がい者の雇用率は法律で決まっていますが、数字にとらわれず、働きたいと言ってくれる人がいるなら受け入れる体制を整えて、望むなら誰でも働けるような職場にしていきたいです。

● **小口** 私も9番（産業と技術革新の基盤をつくろう）です。電気関係の専門職の人員が足りないと感じています。別の工場から応援に来てもらうなどで対応はしていますが、作業量も多く大変な仕事です。工場を2人で回っていた時代もあったと聞きました。忙しさからか人の助けやつながりを疎かにしてしまいがちですが、誰かに助けられている、つながっているという思いを強く感じました。

● **佐々木** 小口さんの意見に賛同しますが、私は17番（パートナーシップで目標を達成しよう）を選びます。私の仕事も一人でできるものではなく、取引先など様々な人と関わって仕事をしています。今日私がいない間も、私の仕事を同僚が代わりにしてくれています。そのような連携があつてこそ仕事ができること、一人では決してできないということを感じました。

● **柳原** 私も17番（パートナーシップで目標を達成しよう）です。昨年、職場で生産量をUPさせるといった大きな目標がありました。協力企業の方にご協力いただき何とか目標を達成することができましたが、作業を行う協力企業の方には大きな負担、プレッシャーをかけていたことを後々知りました。同じことを起こさないためにも、今後はコミュニケーションをとりながら作業しやすい環境、共通の目標、認識を持ち、進捗状況をお互いに把握しながら作業できる仕組みを構築していきます。

横浜工場
SCMグループ
生産管理チーム
村田 義隆

富山工場
製造部 第一製造課
三浦 正彦

富山工場
製造部 工務課
小口 誠

横浜工場
CSRグループ
検査チーム
草刈 絵美

塩尻工場 製造部
第三製造課（NC）
佐々木 信子

塩尻工場 製造部
第一製造課
（WA精製）
柳原 賢仁

社長コメント

将来、会社に訪れるであろうリスクを先読みできることは、事業の中にある弱みを強みに変えるチャンスかもしれません。SDGsを会社単位ではなく、一人ひとりの問題として考え、自分の業務や目標の中にあるSDGsに貢献していくのもよいと思います。各々で目標や取り組みを持つくらい、ゆるい感じで展開していくのがいいのかもしれない。

SDGsをどう理解し、どう取り組むかは、難しく考えすぎないことも大切です。今日の講演会や座談会が、今まで踏み出せなかったけれど、実は行動できるのではと考えるきっかけになれば嬉しいです。それぞれ違う視点や考えを抱いたはずなので、工場内やチーム内で思いを出し合うことが、より良いSDCへの近道だと思います。

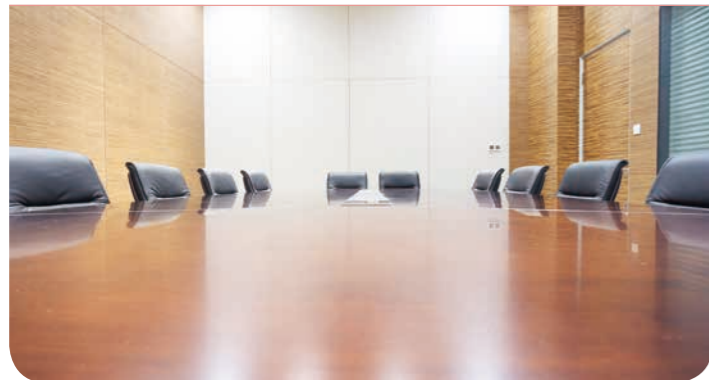
代表取締役社長
大王 宏



組織統治



法令を遵守することはもとより、高い倫理観を持って行動します。



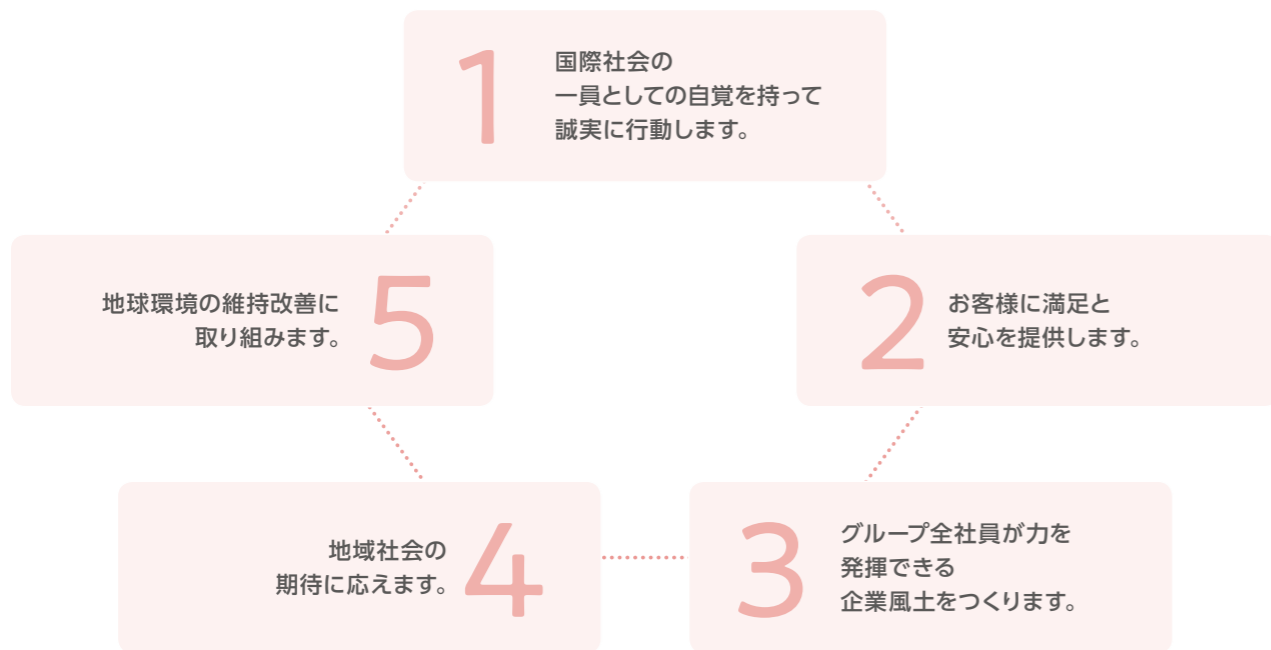
- 担当業務に関する法令・協定・会社の規程・規則や正しい手続きの仕方およびそれらの変化を理解し、遵守します。
- 国内外の法令を遵守し、世界人権宣言や様々な国連条約を尊重し行動します。
- ルール化されていないことであっても、誠実な言動を心がけ、社会の一員としてステークホルダーから信頼されるように誠実に行動します。

私たちの行動規範／コンプライアンス

昭和電工グループの考えるCSRとは、「事業活動を通じたSDGs課題解決への貢献と、私たちの行動規範に基づく全社員の行動によりすべてのステークホルダーにご満足いただける社会貢献企業を目指すこと」です。

クホルダーに対して何をすべきか考え、行動しなければならないことを挙げて、各部署でディスカッションを行っています。昭和電工グループの一員としての責任を果たし、国際社会の持続的発展に貢献していきます。

行動規範に掲げる5項目に則り、私たち一人ひとりがステ



取締役会

取締役会では、会社の基本方針を決定すると共に会社法および定款で定められた事項および重要な業務執行案件について、審議を経たうえで決定し、経営の意思決定機能の迅速化と活性化を図っています。計画的に年4回の取締役会、年1回の定時株主総会、監査役監査を実施しています。

監査役監査

昭和電工グループ監査役による監査を実施しています。工場概況、生産概況、技術・開発課題の進捗等、実査を通じて、経営の健全性確保のための提言、助言、勧告を行っていただいています。

遵守評価

法規制に則り適正な管理並びに対策実施が取られているか、毎年全部署でコンプライアンスチェックリストを活用して確認しています。

リストは、環境・安全・化学物質に係る法令をカバーした約500程の設問からなり、継続してチェックを行うことで進捗

の度合いや新たな法規制への対応、これに係る社内体系の整備や規定類等の文書整備を行うことができます。

近年は、化学物質に関する規制が厳しくなり事業者課せられる責任も益々大きくなってきていますが、このリストを活用することで漏れの無いチェックを行うことができます。

内部監査

昭和電工セラミックスが発足したのを機に、2015年より監査員の技能向上と他工場の生産品や業務を学び自職場に生かすことを目的に3工場間で監査員の派遣を行っています。第三者機関による外部監査と異なり、社内統一した重点項目を掲げ自由な視点で、監査員に任命された面々が専門業務

とは異なる部門の監査を行うことにより、新たな発見や気づきの場に活用されています。毎年対象となる部門と監査員をローテーションすることにより多くの学びの場と交流の機会を提供しています。

▶ ステークホルダーの声：内部監査について

交流内部監査を通じ、課題解決の知恵と新たなアイデアが生まれます



塩尻工場
製造部 技術開発グループ
田中 誠二

交流内部監査は、監査能力向上と人材交流を目的とし2015年より実施しています。

昨年度は富山工場の監査を実施し、品質向上や環境対策など様々な取り組みや改善手法に取り組みられていることを学びました。内容は自職場に持ち帰って情報共有し、活動の参考にしています。

また、以前自職場が交流内部監査の対象職場になった際、今まで全く気づかなかった職場の欠点の指摘を受けました。文化や経験、職場環境の異なる方の視点によって発見され改善することができました。

交流内部監査は、工場間の文化の違いによる疑問点の指摘によって、潜在する危険個所の発見、問題点の再確認、改善につながるものと考えています。

人権



人権を尊重し、個性の尊重、自由な発想、建設的な議論により、新たな価値を創造します。



- 一人ひとりが社内外で差別行為をしないことに加え、国際社会に存在する民族差別、階級差別、児童労働、強制労働、貧困問題などの人権問題の解決に向けて、サプライチェーン等に働きかけるなど、人権尊重に積極的に取り組みます。
- 多様な人材が互いにその個性を尊重し、前例にとられず自由に発想し、建設的に議論することで、新たな価値を生む状態を目指します。

改善提案制度・ヒヤリハット

効率よく、動きやすい安全な職場づくりを目指し、30年以上前から改善提案・ヒヤリハット事例の提案制度を推進しています。改善提案は安全・安定運転、安定品質、コストダウン等を意識し、日常の業務の中で改善活動が続いています。ヒヤリハットは自分が「ヒヤッとしたりハットした体験」を広く周知することで、似たような災害を未然に防止するのに役立ちます。各工場では毎年、最多改善提案提出者の表彰制度を設けています。



塩尻工場 改善提案制度の表彰式

5S活動への取り組み

動きやすい安全な職場づくりを目指し、全部門で5S活動（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）に取り組んでいます。部署ごとに選任された推進員を先頭に、設定した目標を目につく場所へ掲示し自発的な取り組みを促しています。工場長をはじめとしたトップが率先して定期パトロールを行い、指摘・改善することにより理想とする職場づくりを続けています。

人権教育

昭和電工グループの経営理念に掲げる、「社会的に有用かつ安全でお客様の期待に応える製品・サービスの提供」に向け従業員が働きやすい職場づくり、人権意識向上を目的に人権教育を実施しています。

2018年は「パワーハラスメント」をテーマにしたショートケースをもとに研修を実施し、職場ごとにディスカッションを通して「どんな立場・場面であろうと、相手に対し敬意を払い、相手を尊重する」ことが大切だと学ぶ機会となりました。また、「LGBTも働きやすい環境づくりー職場のダイバーシティを考えるー」の研修会を継続して開催しています。

労働組合との対話

昭和電工セラミックス労働組合と労使会議等を通じ、現地で抱える課題の迅速な協議・対策および問題共有化のため意見交換を重ね、労使協業を基に経営方針・企画の浸透を図り活動を進めています。組合員の意見を経営に反映させた働き甲斐のある職場づくりのため各種活動を推進していきます。

ビジネスマナー講座

外部から講師を招き、名刺交換、あいさつの姿勢、言葉遣い、ビジネス文章の書き方のポイントの講座を実施し、従業員一人ひとりの自覚を促しています。

安全の取り組み

■ 安全教育

安全・安定操業の実現に向けて、従業員、協力企業責任者を対象に新規入講時の場内安全ルールや環境教育・製品教育・粉じん教育・酸欠防止教育・化学物質に関する教育を実施しています。なかでも化学物質の量が多い当社では特定の化学物質を題材にした教育を開催し、特性や取り扱いの注意点、被液または漏洩した場合の対処方法を共有しています。

■ 禁札教育

禁札とは不特定多数が携わる設備に不具合が生じ整備や修理が必要な場合、作業担当者以外は絶対に手を触れないよう注意を促す標識です。一步運用を間違えると被液や爆発といった事故・災害につながりかねません。このため、各工場では禁札の意味・使用方法や注意点の教育を実施し、さらには理解度を確認するためのテストも実施しています。

■ 危険体感教育

職場に存在する危険（危ない作業、守りづらいルール）を具体的に示し、身近な危険を肌で感じてもらうために、従業員を対象に危険体感教育を実施しています。危険体感教育で「危険とは何か?」「ルールを守るとはどういうことか」を再確認し危ない作業、守りづらいルールを洗い出し、作業しやすい環境づくりに努めています。

■ 場内安全パトロール

法定パトロールの他、自主的なパトロールを実施しています。パトロールでは工場内で定められた規則の遵守状況の確認や不安全な状態で放置されたものがないかなど、様々な視点でチェックをしています。対策・改善を求めることもありますが、作業員の安全意識の向上はもちろんのこと、健康状態の確認にもつながっています。

■ 保護具講習会

保護具メーカーから講師を招き、職業性疾患の最新情報やその対策としての保護具の選定方法を学びました。日頃から使用している保護具の点検方法と正しい着用方法を共有化しました。



富山工場 保護具講習会の様子

■ フォークリフト安全教育

フォークリフトの「死角」や、操作における注意点、フォークリフトの特徴や事故事例について講義いただき、実習では社員が実際にフォークリフト後方に人を立たせての死角確認を行い、乗り降りの手順から操作について注意すべき点を確認しました。さらにフォーク爪先の水平感知機能や、持ち上げた重量の計測機能、点検・整備など専門的な視点で解説していただきました。

■ 熱中症教育

夏場は炎天下の作業ばかりではなく、室内の作業で脱水症状となる例があります。そこで、地域別、年代別の熱中症の発生傾向や発生時期など種々の統計資料をもとに、各工場で産業医による教育を実施しています。熱中症の症状やその対策に始まり、日頃の睡眠や規則正しい食生活など体調管理にまでテーマを広げ災害の未然防止に努めています。

■ 安全審査

設備の新設、増設、改造、廃止等の工事並びに試運転を実施する際に事前にその計画の安全性を審査します。また、環境（安全に対する安全性）並びに製品品質への影響を評価する手順を定め、問題点を明確にし外部、内部に対する安全性を確保することを目的としています。

▶ ステークホルダーの声：安全の取り組みについて

安全衛生に関する教育訓練

私の職場は開発に特化した業務が多く、日常の業務ではなかなか、場内の安全や衛生管理に触れる（まとまった）機会が少ないので、社内で行われる各種教育訓練には時間の許す限り参加するように心がけています。中でも、健康講座では、喫煙による健康被害

を思い知り、これからの長い人生を健康的に過ごしていくためにはどうしたらよいのか考えさせられる良い機会になりました。

富山工場
製造部 技術グループ
深山 政輝



労働慣行



社員一人ひとりの労働意欲を高め、誰もが働きやすい職場づくりを推進します。



- 人材育成方針を明確にして社員の能力を開発し、働きがいを持てる職場環境を整備します。
- 社員が安心して働けるよう、安全かつ健康に配慮した職場環境を構築するための取り組みを徹底します。

改善活動

■ SDK-S活動（塩尻）

SDK-S活動とは塩尻工場で推進している全員の力を結集し工場目標を達成する活動です。各課・グループの課題の中で重要なテーマの場合はチームをつくり、メンバーで知恵を出し合いながら取り組みを進めています。年2回の発表会、年3回の報告会・テーマリーダー会では毎回活発な議論が行われます。

■ きときと活動（富山）

きときと活動とは富山工場で行っている改善活動のことで、生産の効率を阻害するあらゆるロス、ムダを徹底的に排除することで、災害ゼロ・不良ゼロ・故障ゼロを目指し、生産効率を極限まで高めていく活動のことを指しています。この活動は、生産・開発・設備・管理部門など全員参加活動であり、現場では活動板やワンポイントレッスンシートなどを活用しながらサークル活動を展開しています。

■ OASIS活動（横浜）

横浜工場で行っているOASIS活動は昨年の取り組みが認められ、昭和電工グループ・ダイバーシティ CEO表彰で「優秀賞」を獲得しました。所属、世代、性別などバラバラのチームを編成し、場内美化、KYトレーニング、座談会に取り組んだ結果、工場全体の安全意識が向上し、工場内が綺麗になり、コミュニケーションの活性化につながりました。今後もOASIS活動に継続的に取り組むことで、従業員一人ひとりの意欲向上を図り、自主的な活動に取り組んでいきます。

人材育成の取り組み

当社では、求める人材像を明確化し、教育体系を見直しました。以下の施策を講じることで、能力開発に意欲的な企業風土をつくっています。

- 1) 各職層に必要な知識を提供する階層別研修の充実。
- 2) 職場の将来を担う主力中堅社員育成を目的とした選抜研修の実施。
- 3) 社員が知識の幅を広げる機会を提供する教育通信の定期配信。

■ 求める人材像



富山工場 新入社員教育の様子

緊急事態への対応

■ 普通救命講習会

訓練用のマネキンをを用い被災者の意識確認、救護応援の要請、心肺蘇生・気道確保、AED（自動体外式除細動器）の活用に至る一連の訓練をそれぞれ行いました。参加者は座学だけでなく、被災者に見立てたマネキンを前に訓練することで、施術の強さ加減やよりリアルな対応方法を身に付けることができました。



塩尻工場 AED 講習会の様子

■ 自衛消防活動

塩尻工場では、塩尻市防火管理協会が主催する自衛消防訓練会にて、通報訓練、煙体験、初期消火訓練、消防用設備訓練、応急手当講習会に参加しています。富山工場では、富山県が主催する自衛消防操法大会にて、障害物を排除し119番通報を行ってから消火器・水バケツで消火をし終わるまでのタイムを競う大会に参加しています。横浜工場では、毎年、神奈川消防署主催の自衛消防隊消火技術訓練会に参加し、消火器操法訓練で火災発見から消火までのタイムを競う訓練大会に参加しています。

防火・防災の知識・技能を習得するため、今後も継続的に参加していきます。

■ 備蓄管理

企業防災の要素の一つである「生命の安全確保」の一環として、防災備蓄用品を備えて管理をしています。地震や津波、風水害などの緊急事態にあらかじめ備えて、被害を防止、または最小限に止めるための行動や避難場所を定めています。帰宅困難者への非常用物資として、水・食糧・その他必要物資を備蓄しています。

また、災害時に無償で飲料が取り出せる災害救援自動販売機や津波に備えて耐震補強された事務所・建屋があります。

■ 緊急時処置訓練

塩尻工場では、電炉の異常事態を想定した訓練を実施し、非常時の初動や建物からの退避、近接する職場で働く従業員の避難経路や集合場所を確認しました。富山工場では、作業車からオイルが漏れ排水溝へ流れ込んだケースを想定し、発見通報から始まり、流出防止のため排水溝への土壌投入や堰板挿入、油の吸着・中和処理の訓練を実施しました。

横浜工場では毎月1回、緊急時処置訓練を実施しています。苛性ソーダが排水溝に流出したという想定で異常の発見から始まり、その対応方法について緊急時処置マニュアルをもとに管理室と現地設備で相互に確認をしました。

■ 消防設備点検

塩尻工場内外にある全ての消火器、火災報知機、消火設備の点検を年1回実施しています。点検では1本ずつ圧力、外観、機能をチェックしています。2022年より使用禁止となる旧型消火器は計画的に更新しています。

■ 防災訓練

各工場では災害発生を想定した防災訓練を実施しています。発災時に、各自が緊急組織体制下で迅速かつ適切な処置が取れるように訓練をしています。横浜工場ではガス漏れを想定した訓練を行いました。外に出られないという特殊な状況の中で、対策本部では情報伝達の方法がメールや電話に限られるなど、地震や火事などの災害とは一味違った訓練となりました。



横浜工場 防災訓練の様子

▶ ステークホルダーの声：緊急事態への対応について

油断せず、声を掛け合い、安全第一で行動しよう！

当社は、横浜工場に常駐し、プラントの保全工事、営繕を担当しています。当社では、ゼロ災害を目標に年間安全衛生管理活動を定め、KY、ヒヤリハット、3S活動、各種の点検活動などを実施しています。災害の原因の90%は人の不安全行動であるといわれており、そのためには安全管理規程の徹底や安全教育が重

要であると考え、教育資料を（テレビ画面に）パワーポイントで表示し、（可視化により）わかりやすい教育を心がけています。ウツカリ・ボンヤリ・不注意・錯覚などの災害の原因は、人間固有の働きで、誰でも起こす可能性があるため、「指差呼称」で意識を集中させ、行動の安全を確認するように監督者が率先して指導しています。また、作業にあたっては、「油断しないで、お互いに声を掛け合って、安全第一で行動する」ことを掲げ、無事故・無災害に貢献できるよう取り組んでいます。



株式会社 安斉管鉄
横浜作業所 所長
安斉 融さん

環境



レスポンシブル・ケアを推進します。



- レスポンシブル・ケアは化学物質を取り扱う企業が自主的に環境・安全・健康に取り組む活動のことです。当社グループのCSR活動の根幹にはレスポンシブル・ケアがあり、その実践を通じて、社会から信頼・評価される企業を目指します。

廃棄物削減の取り組み

昭和電工グループは、全社を挙げ廃棄物発生量の抑制および、ゼロエミッション（最終埋処分量が廃棄物発生量の1%以下）の達成を目標に掲げ、外部委託業者の協力を得て3R（Reduce・Reuse・Recycle）への取り組みを進めています。また担当者が毎年委託先へ出向き、中間処理・最終処分状況を査察し廃棄物が適正に処理・処分されていることを確認しています。

※ゼロエミッションとは：排出される廃棄物をいかに処理するのではなく、それを再利用しあらゆる廃棄物量をゼロにすることを社会全体で目指すグローバルな取り組み。資源とエネルギーをできる限り有効に使用し、環境への排出をゼロに近づけ資源循環型の社会を目指すもので、国連大学が1994年に提唱した。昭和電工グループでは「最終埋処分量が廃棄物発生量の1%以下」と定義している。

▶ ステークホルダーの声：廃棄物削減の取り組みについて

廃棄プラスチックのリサイクルで資源循環に貢献します

もともとは公共建設やインフラに用いられる資材の営業を行ってまいりましたが、周囲を取り巻く環境の変化から自身の健康管理への関心が高まり、家族の健康や地球の健康、環境保全に興味を持つようになりました。そんな折、縁あってここ富山の地にリサイクル工場を構えることとなり、お客様から預かった廃プラ等の産業廃棄物を選別、一次処理することで商品化し国内ばかりでなく

海外に販路を広げ販売を行っています。昭和電工セラミックスさんとは創業当初より富山工場、少し遅れて塩尻工場とお付き合いさせていただいています。また、私個人が若い頃から社会福祉に関心があり携わってきたその理念に共鳴いただき、お預かりした売上の一部を日本赤十字社へ寄付し僅かながらですが、より良い世の中づくりに役立っていただいています。

富山の小さな工場ですが、世界に発信できる取り組みを進め、今後も末永いお付き合いと提案を心がけていきたいと思ひます。



細野物産株式会社
代表取締役
細野 彰久さん

エコ事業所認定

2010年に富山県では、県内廃棄物の減量化、リサイクル推進を目的に「富山県リサイクル認定制度」が制定され、廃棄物を利用したリサイクル製品や廃棄物の減量化・リサイクルなどに積極的に取り組んでいる事業所の認定制度が開始されました。認定の範囲は、リサイクル製品、エコショップ、エコ事業所の3分野にわたり、富山工場はゼロエミッションの達成やアルミ缶・エコキャップの回収・寄付およびLED照明の採用等の取り組みが評価され、2013年に県内6社目のエコ事業所に認定されました。認定された事業所は、県情報誌やHPに掲載され、広く内外へその取り組みが紹介されています。



富山県リサイクル認定 シンボルマーク

リサイクル実例

廃棄物分別の徹底、シュレッダー屑を含む紙類や廃プラスチック等の事務系一般廃棄物の全量リサイクル、コピー用紙の裏紙活用等、様々な取り組みにより埋立廃棄物量の削減に努めています。

■ ECO-RC 砕石

アスファルト舗装の地下材になります。



■ 再生プラ

プラスチック製品材料として使用されます。



■ 再生塩ビ

再度成形し配管等に使用されます。

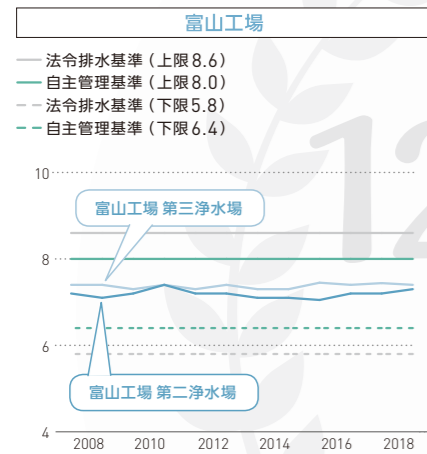


環境データ

水質データ：水質汚濁防止法による排出基準や地域との協定に基づく規制値を遵守しています。各工場では、地域との規定に基づく規制値より厳しい自主管理基準を設けています。環境維持のために、pH・SS・BOD・CODの常時監視を行い、排水監視の強化に努めています。

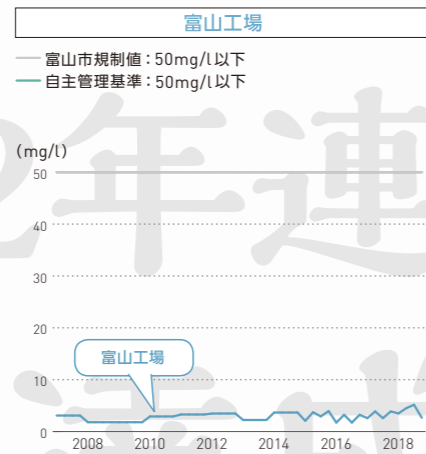
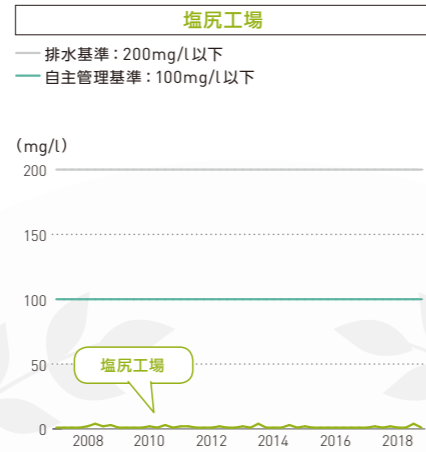
pH (水素イオン濃度指数)

物質の酸性・アルカリ性の度合いを示す物理量 pH1～14の範囲で示される。pH7を中性とし pH7より小さい値を示すと酸性、大きければアルカリ性を示す。



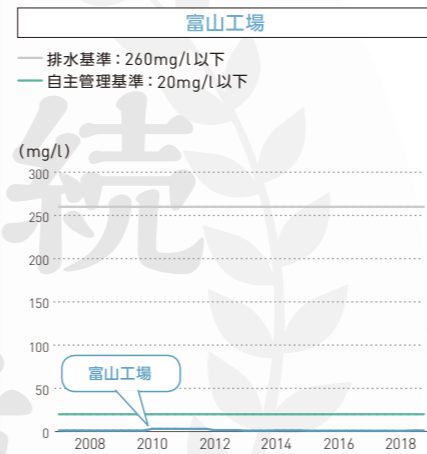
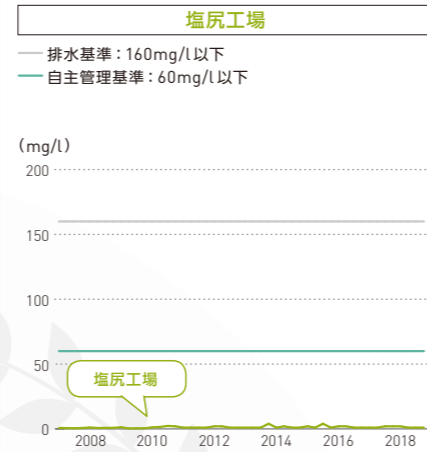
SS (水中に浮遊している物質)

水中に懸濁している直径2mm以下の不溶性物質のこと。



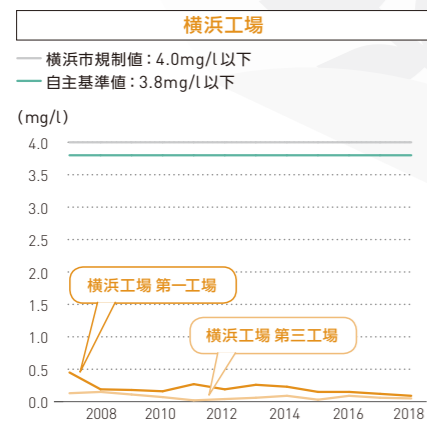
BOD (生物化学的酸素要求量)

有機物指標微生物によって分解される際に消費される酸素量。数値が大きいほど水中の有機物が多く汚染が著しい。



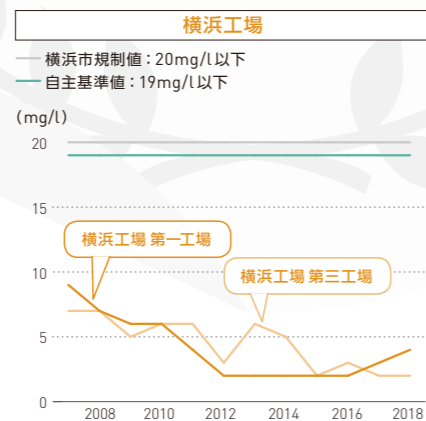
T-P (全リン)

リン化合物は窒素化合物と同様に、動植物の成長に欠かせない元素であるが、水中の濃度が高くなると水域の富栄養化を招くことになる。



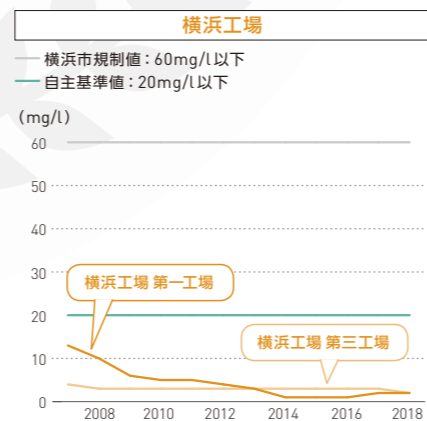
T-N (全窒素)

窒素は水域の富栄養化の原因の一つであることから、富栄養化のおそれのある湖沼、海域について環境基準 (全窒素)、排水基準 (窒素含有量) も設定されている。



COD (化学的酸素要求量)

水中の有機物を酸化剤で分解する際に消費される酸化剤の量を酸素量に換算したもので、海水や湖沼水質の有機物による汚濁状況を測る代表的な指標。



■ 温室効果ガス (GHG)

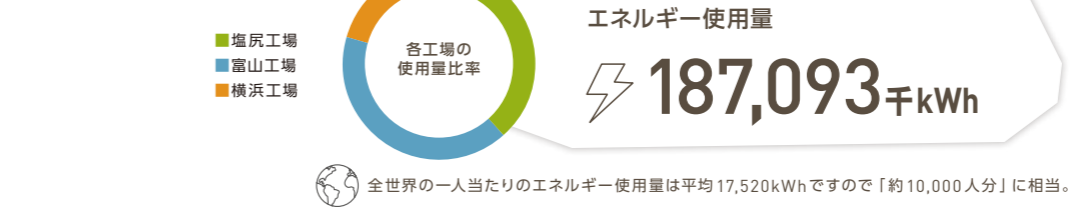
地球温暖化防止および資源保護の観点から温室効果ガス排出量の削減に努めています。環境方針の項目に省エネルギーを重要課題として位置づけ、生産工程の見直し、運転最適化などによる省エネルギーを推進しています。温室効果ガスは燃料使用量と他社から供給された電気・熱の使用量から算出された排出量に排出係数を掛けて、算出されます。排出量は生産量の増減により変動します。



廃棄物処分量



エネルギー使用量



発電設備の紹介

工場を稼働させていくうえで電力は重要ですが、限りあるエネルギーを有効活用するため、再生可能エネルギーの利用にいち早く着目し活用を進めています。

■ 塩尻

信濃川水系上流の梓川の水力を利用し、戦後1950年(昭和25年)運用を開始。自社工場の電力供給だけでなく、地域の水利事業においても広く利用されています。年間発電量は一般家庭5,460世帯の年間使用量に相当します。また2013年からは、敷地内に東京ドームの半分ほどの面積のメガソーラー発電設備を誘致し、年間180,000kWhの発電量を得ると共に、年間844tのCO₂の削減にも大きく貢献しています。



赤松発電所

■ 富山

多くの電力を必要とする電解電炉を用いた製造を主体としていた富山工場は、1954年(昭和29年)電力会社を主体に民間企業11社が共同出資した発電所を神通川上流の岐阜県高山市の見座・葛山の2ヶ所に建設し運用を開始しました(現在は4社の出資)。年間300,000MWhを発電し、出資会社における消費電力を賄うだけでなく、地域の発展にも貢献しています。



見座発電所

公正な事業慣行



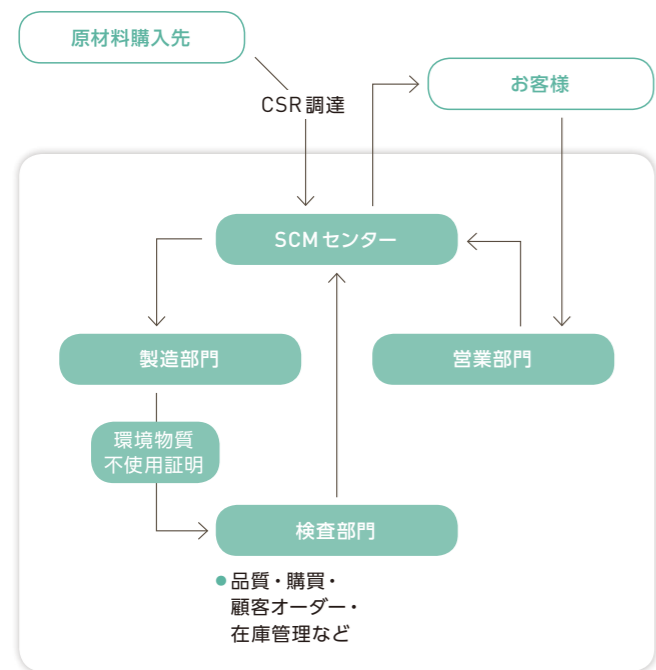
公正かつ自由な競争を基本とした取引を行います。



- 独占禁止法を遵守し、公正な取引を行います。
- 各国の競争法を遵守し、公正な取引を行います。
- カルテルに参加しません。また、それを疑われるような行動をとりません。

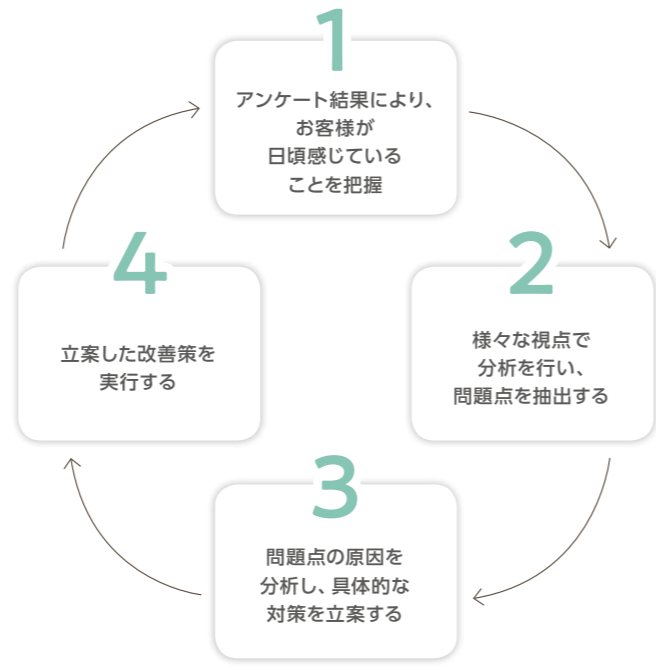
CSR 調達

CSR 調達は、「昭和電工グループ CSR 調達ガイドライン」をパートナーの皆様と対話を通して共有し、信頼関係をさらに強固なものとすると共に、協働で遵守することで、お互いの企業価値を向上させることを目指すものです。



顧客満足度調査 (CS 調査)

当社では年1回、製品の消費者であるお客様（企業）にアンケートを実施し、製品、品質、開発、改良、納期、包装、配送、サービス、価格等に対する満足度を調査しています。



消費者課題



ビジネスパートナーと協働して、お客様の期待に応える製品を安定的に供給します。



- 製品・サービス、およびパンフレット・カタログ等にわかりやすく正確な表示をします。
- お客様に当社の製品を推奨・説明する際には、事実を正確に伝えます。
- 購入先を選定する際には、門戸を広く開放し、公平に比較して決定します。
- 発展途上国と取引を行う際は、その経済的自立を阻害することのないよう、適正な価格による継続的な取引を心がけます。

マネジメントシステムの取得

当社では、国際規格のISO9001、ISO14001、マネジメントシステム規格のOHSAS18001 (ISO45001に移行中) を取得し、工場内で規定した要領に従い生産活動を行っています。

品質保証体制

当社は、実用性および安全性に配慮した製品・サービスをお客様に提供するため、法令・規制要求事項を満たした製品、さらにはお客様に満足いただける製品を提供できる仕組みを継続的に改善しています。



コミュニティへの参画および

コミュニティの発展



立地する国・地域社会に対し適切に情報を開示し、コミュニケーションを進め、相互理解を深めます。



- 地域社会の一員として、率直なコミュニケーションを図ります。
- 文化・宗教・歴史・慣習など、地域の特性を理解、尊重します。
- 地域社会に的確に情報を提供し、ご理解いただくよう努めます。
- 周辺地域の安全や環境に影響を与える可能性がある事態が発生した場合は、速やかに適切なルートで情報を発信します。
- ボランティア、文化活動、レクリエーションなど、様々な活動に地域社会の一員として参加します。

レクリエーション

健康づくりと社員同士の親睦を図るためにソフトボール大会、ソフトバレーボール大会、マレットゴルフ大会、近隣企業とのフットサル大会を実施しています。また、スポーツ以外のレクリエーションとして、歩け歩け企画では、大勢の従業員や家族に参加していただき日頃の運動不足を解消。普段あまり顔を合わせない方とも交流する機会になっています。

2018年10月13日には、「社員同士のコミュニケーションを活性化させSDCを盛り上げよう!」をテーマに3工場の従業員40名が富山に集い、レクリエーションを通じて交流を深めました。



交流会2018の様子

工場見学会

当社では、お客様、地域の方々、学校関係者、行政関係者等様々な方に製品、安全・環境への取り組みを知っていただくために、工場見学会を随時実施しています。今後もわかりやすい工場見学会を継続していきます。

2018年来場者数

塩尻工場	272名
富山工場	53名
横浜工場	14名

アルミ缶リサイクル活動

当社では2001年より全従業員がアルミ缶リサイクル活動に参加しています。工場内で購入したアルミ缶だけではなく、各家庭から出た使用済みアルミ缶の一部を工場に持ち込んで回収しています。回収したアルミ缶の収益金の一部は、地域の小中学校や社会福祉事業団へ寄付され、社会貢献活動として定着しています。

2018年寄付実績

塩尻工場	市内中学校へホワイトボード2台を寄贈(60,000円相当)
富山工場	萩浦小学校へ寄付(80,000円)
横浜工場	公益財団法人 神奈川新聞厚生文化事業団へ寄付(41,340円)

次世代育成支援活動

次世代を担う高校生、大学生に工場見学や現場研修を通して作業体験をしていただいています。学習レベルに応じた様々な技術や新たな取り組みを体験していただくことで化学への興味と理解を深める一助となることを目的としています。

2018年受入数

塩尻工場	6名(中学生、高校生)
富山工場	2名(高校生)



塩尻工場 インターンシップの様子

ステークホルダーの声：次世代育成支援活動について

支援自動販売機設置で知的障がい者のアスリートを支えています

昭和電工セラミックス株式会社塩尻工場に、スペシャルオリンピックス日本・長野の支援自販機を設置いただきありがとうございます。スペシャルオリンピックス(SO)とは、知的障がい者にスポーツトレーニングの機会と、その成果を発表する様々な競技会を提供し、彼らの自立と社会参加を応援する国際的なスポーツ組織です。1968年ケネディ財団の支援でアメリカから始まり、現在170ヶ国以上の国々が参加。日本では1994年に「スペシャルオリンピックス日本」が設立。47都道府県で活動しています。SO日本・長野は全国で唯一世界大会を開

催しています。夏季9競技、冬季7競技を行い、県内各地で延べ3,000人のアスリート、1,420人のコーチが活動しています。SOの運営、アスリートの活動費はボランティアと善意の寄付で行われていますので引き続き支援自動販売機へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。さらに他の工場にも是非SO支援自動販売機の輪を広めていただければ幸いです。

公益社団法人 スペシャルオリンピックス日本・長野
理事長
伊澤 喜久子さん

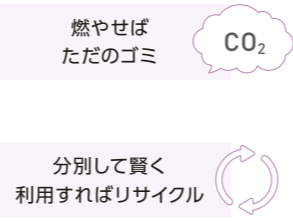


各種施設の開放

塩尻工場のグラウンド・マレットゴルフ場は従業員の健康づくり、レクリエーションの他、年間を通じて小中学校のクラブ活動や近隣地域のスポーツ大会、イベントにも利用されています。また、グラウンド横にあるバーベキューコーナーは、春から秋にかけて大勢の従業員や地域の皆様に懇親会や慰労会の場所としてご利用いただいています。

プラスチックリサイクル活動

ペットボトルのキャップをはじめとしたプラスチック類の回収活動を行っています。回収されたプラスチック類は、形状別に分別し専門業者に買い取っていただき、その売却益は買取業者を経由して日本赤十字社の活動に役立てられています。また、プラスチックごみをリサイクルすることにより廃棄焼却時に発生するCO₂の削減にも役立っています。



富山工場 日本赤十字社富山県支部へ廃プラ売却収益を寄付 (134,000円)

ストレスチェック制度

2015年12月1日から、労働安全衛生法の一部を改正する法律により、ストレスチェック制度が施行されました。

- 働く人がストレスによって心の健康を損ねることを未然に防止する
- 働く人が自分自身のストレスに気づいて対処する
- 働きやすい職場の実現



以上3項目が大きな目的です。当社では、定期健康診断と合わせて簡単な質問に対して回答するストレスチェックを実施しています。今後も働く人の心の健康を守る取り組みを実施していきます。

地域清掃活動

工場周辺や市や県の街づくりの一環として実施される清掃活動に参加しています。合わせて、工場内の緑地帯整備・荒地整備を進めて、目標としている「工場ショールーム化」を具現化するため、全従業員で清掃活動など美観を維持する活動を実施しています。

■ 2018年実績

塩尻工場	6月	「エコ・ウォーククリーン塩尻大作戦」	45名
		5S委員によるゴミ拾い	11名
富山工場	7月	きれいにせんまいけ大作戦	24名 (海岸清掃)
	8月	富山市一斉清掃	10名 (工場周辺)
		環境月間工場周辺清掃	10名
横浜工場	9月	わが町かながわ一掃作戦 (神奈川県役所地域振興課主催)	60名
	1月、3月、5月、7月、11月	横浜地区A職クリーン活動	計100名

健康増進の取り組み

昭和電工グループは「健康保持・増進プラン2021」と称する健康増進活動を実施しています。4分野 (①生活習慣病の予防②こころの健康づくり③生活習慣病の改善④健康診断と

事後のフォローの確実な実施) の健康目標を設定し施策を実施しています。

ステークホルダーの声：健康増進の取り組みについて

横浜健康経営認証2019クラスAAを受けました

横浜工場は、「横浜健康経営認証2019」クラスAAの認証を受け、2019年1月15日にワークピア横浜 (横浜市中区) で行われた認証式にて認証状をいただきました。横浜健康経営認証とは従業員の健康づくりを経営的視点から考え実践する「健康経営」に取り組む企業を横浜市が認証するもので、2017年から始まっています。このたび、横浜健康経営認証の審査を受けるにあたり健康経営に対する意思を具現化するため、①残業時間や有給休暇取得率の確認、②コミュニケーション活性化のために事業所全員参加で取り組んでいるOASIS活動やダイバーシティ活動についてのスピー

ル、③健康セミナーの開催や運動・食生活・休養について各自で取り組む横浜健康チャレンジの実施等の取り組みを紹介することにより、認証を受けることができました。今後も定期的な取り組みの評価・改善を行い、さらに上の最高評価であるクラスAAAを目指してまいります。



横浜工場
総務グループ長
三谷 洋之



認証状

納涼祭

塩尻工場では8月17日にふれあいパーティー (納涼祭) をグラウンドで開催し、近隣住民、従業員・家族合わせて1,200名以上の方が参加しました。市内飲食店による出店や高校のjazzbandによる演奏、豪華景品が当たる大抽選会を行い大盛況でした。



横浜工場 納涼祭の様子

横浜工場では10月11日に秋桜祭 (納涼祭) を開催し従業員、協力企業、招待客の皆様300名以上の方が参加しました。お楽しみじゃんけん大会や抽選会は大いに盛り上がり、多くの方に喜んでいただきました。

富山工場では毎年夏、イベント会場の一角を借り、なるべく多くの従業員が参加できるように7月27日と8月9日に分けて納涼祭を開催しています。抽選会では豪華景品の抽選の度に、大きな歓声が響く賑やかな集まりとなりました。

今後も地域社会の一員として、納涼祭を通じてステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを深めてまいります。

2019年 CSR 行動計画

◎：当初計画より大きな効果あり ○：有効な効果が得られた/継続的に実施
△：計画していた結果を得られなかった/見直しが必要 ー：非該当

項目	2018年計画	2018年実績	評価	2019年計画
人権・企業倫理・コンプライアンス	人権啓発活動を着実に推進する	ケーススタディを用いたグループ教育	○	人権啓発活動の継続
	コンプライアンスと企業倫理を定着させる	私たちの行動規範と実践の手引きの読み合わせ 集合学習の教材を用いてグループ内でワークショップ	○	私たちの行動規範を活用してグループワークの継続・充実
RC体制	リスクの棚卸を継続する	リスク管理表・評価表の見直し実施	○	リスク管理の継続
	クライシス対応の強化	防災訓練、事象別対応訓練の実施 マスコミ対応訓練の実施	○	クライシス対応強化の継続
	BCP(事業継続計画)策定	重要設備の耐震診断・耐震化工事の実施	○	BCPからBCM(事業計画マネジメント)への定着
	マネジメントシステム(RC/QMS/EMS/OHSAS)の改訂・更新への効率的な運用	3工場の共通マニュアル作成完了 EMS、QMS、OHSAS 統合運用開始	○	更新審査に向けた適切な対応
	各種教育体制の充実	階層別教育を実施	○	教育内容および体制の充実
	RC監査体制の充実・RC実績把握のスピードと信頼性向上	3工場マネージメントレビュー 各課実績検討会での報告実施 RC相互査察	○	スピードと信頼性の向上
労働慣行	多様性の推進に向けた取り組みを実施する	手話勉強会、障がい者雇用の継続	○	多様性の推進継続(ダイバーシティ教育)
公正な事業慣行	CS調査対象範囲を拡大する	CS調査の継続	○	CS調査の継続
環境安全	化学物質に関する教育・管理体制の充実	実施内容のルール化	○	化学物質に関する法令 安全教育の充実
	国内法規制におけるリスクアセスメントの実施	安全コンサルタントによるパトロール実施 化学物質リスクアセスメント教育実施 化審法教育の受講	○	安衛法対象物質および取扱作業におけるリスクアセスメントの実施
	海外法規制への適切な対応	海外向けSDS作成	○	海外法規制への適切な対応
労働安全	安全に強い職場と人づくり	安全大会、安全帯教育の実施 危険体感設備の活用	○	危ない設備、危ない作業の撲滅 教育・訓練による安全感向上
	安全管理レベルの向上	OHSAS 審査受審	○	労働安全衛生マネジメントシステムの規格認定および維持・更新審査結果を反映したルールの見直し
設備安全	再発事故防止	災害の水平展開によるリスク抽出と対策実施 協力企業特別措置実施基準作成	○	「創る安全」活動の完全定着
	特定危険物質のリスク排除	ー	ー	ー
	自主保全	保安監督者の増員	○	設備安定化、保安監督者の増員継続
労働衛生	衛生管理体制の強化(関係会社・協力企業含む)	各種教育、職場安全衛生会議の実施	○	管理体制の強化、 洗身洗顔設備の設置・整備
	作業環境・作業方法の改善	熱中症対策の充実(暑さ対策、休憩所の増設)、作業別のパトロール実施による指摘と改善	◎	作業環境・作業方法の改善
	快適な職場の形成	分煙化の実施	○	転倒・つまづき災害撲滅 分煙化継続
健康管理	昭和電工グループいきいき健康づくりプランの推進	内脂肪測定会の実施	○	昭和電工グループ健康保持・増進プラン2021の推進
	健康管理の強化	健康診断受診率100% ストレスチェック制度実施 規定運用開始	◎	健康管理の強化、 ストレスチェックの実施と適切な活用
産業廃棄物の減量化、再資源化の促進	産業廃棄物の減量化	埋立廃棄物をリサイクルへ転換実施 ばいじんリサイクル化 工程内のモレコボレ防止対策による廃棄物削減	◎	ゼロエミッション継続
	再資源化の促進	アルミ缶リサイクル活動の実施 プラスチックリサイクル活動の実施	○	再資源化の具体化
水資源リスク対応	水資源リスク低減	水質調査実施	◎	水資源の定期監視

CSR 報告書 2019 に対する

第三者意見



環境専門家・Ethical life advisor
株式会社 FEM 代表取締役
山口 真奈美さん

昭和電工セラミックス(SDC)が目指す世界とCSRの姿。それは、昭和電工グループの一員として、中期経営計画「The TOP 2021」の推進と共に、CSRの実践へとどう向き合っていくのかということ。直接目にする機会が多くないSDC製品ですが、社会の発展・暮らし・生活を便利にする様々な製品の素材・部品として使われており、その製品や活動、ステークホルダーとの連携など、今年はSDGs(持続可能な開発目標)の観点も織り交ぜつつ見える化された報告となっています。

特集ではSDGsとは何か、私たちの仕事とSDGsはどうつながるかをとりあげ、SDGsとの関わり方や一人ひとり自ら一番大事なものを考え、できることや実現したい夢、職場環境への改善提案など、全社員誰もが自分なりの立場や役割、特性を生かしつつ、目標値以上にバックキャストの考えも取り入れながら、その先へ歩もうとする姿が見られます。社長コメント

第三者意見を受けて

今年のレポートではSDGsの講演、座談会を実施し従業員の仕事とSDGsの目標とのつながりがわかるように工夫させていただきました。環境面では自主管理基準の取り組みや達成を継続していることを評価いただいています。今後も環境影響が最小になるような施策、管理、監視を推進します。

来年のレポートに向けて、工場と地域のつながり、障がい者の仕事の様子、育休後の従業員の声など、今まで継続的に実施してきたことも表現していければと考えています。また、ISO26000等のガイドラインとの比較や目標の可視化、達成度合いの見せ方については、ステークホルダーの皆様により伝わるレポートになるよう検討してまいります。

SDGsへの取り組みについては各工場で様々な活動を推進できる体制を整え、目標をしっかりと立て、一つでも多くの課題を

にも通じますが、SDGsをきっかけに将来のリスクを先読みし、事業の中にある弱みを強みに変えるチャンスととらえると、CSRにより深みと広がりが出るのではという期待が持てます。

組織統治で、高い倫理観を持って行動することは、今後さらに求められる社会ですが、交流内部監査について「文化や経験、職場環境の異なる方の視点」によって「潜在する危険箇所の発見、問題点の再確認、改善につながる」との声は重要であり、人権教育は社内外、国際社会でもより理解し深めるべき分野となっています。さらに、労働慣行でのOASIS活動がグループで表彰されるなど、多様な人々がいる中でのコミュニケーションの活性化やステークホルダーとの連携、また環境面では「世界に発信できる取り組みを共に進めたい」等の意見など、素晴らしい声や活動が報告されています。グローバルな視点と、地域の人々との関係をより継続して深めながら、目標と活動を共にすることは、様々な面でSDGsに関係し、その広がり気運は読者にも垣間見れたのではないのでしょうか。

それから、発電設備を利用した再生可能エネルギーの活用や、厳しい自主管理基準の取り組みや達成、CSR行動計画など、努力の結果はとても評価できますので、SDGsのような様々な視点も織り交ぜながら、より高い目標設定や達成度合いの数値化等の設定と評価、国際社会でCSR REPORTに求められる視点やガイドラインとの比較を取り入れると今後深みも増してきます。一方でSDCの特徴からも、グループの一員としての役割を果たしつつ、トップメッセージにもあるように、「一人ひとりがSDGsを身近に感じられる活動を推進する」ことでSDCらしさが出ることでしょ。

一見見えづらい世界で活躍している製品や人々が、実は私たちの社会の重要な鍵となって支えています。その誇りを胸に、活動やコミュニティーを発展させ、工場のある地域からステークホルダー全体へと輪を広げ、社会課題解決と共に、次世代につながる素敵な社会の発展に貢献されることを期待しています。

解決できるようにSDGsの視点からも視野を広げて活動に取り組めます。

これからもSDCがステークホルダーの皆様にとってより良い会社であり続けられるよう邁進してまいります。



昭和電工セラミックス株式会社
総合管理部 部長
勝野 久志